

(熊本郡南種子町大字島間字横峯)

位置と環境

遺跡は、役場の所在する上中から島間に向かう国道58号の沿線にある。西海岸から約2km内陸部に向かい、約20km離れた屋久島を望む標高約120mの台地上に位置する。

調査の経緯

緊急畑地帯総合整備事業の実施に伴い、平成4年の緊急発掘調査で3万年以上前の礫群が発見された。この発見により、町は、地域住民や受益者の理解を得て、遺跡を事業区域から除外し現地保存し、更に町指定文化財とした。

その後、遺跡の保存・活用を図るため、平成8年から平成10年にかけて重要遺跡確認調査を実施した。また、平成13年に遺跡残存範囲を公有化した。

遺構と遺物

1 旧石器時代の遺構・遺物

調査の結果、旧石器時代は3文化層が存在した。

(1) I文化層(種IV火山灰の下/XⅢ層)

遺構は、3基の礫群が検出された。遺物は、敲石(ハンマー)が出土した。

(2) II文化層(種IV火山灰の上/XⅠ層)

遺構は、4基の礫群が検出された。また、約50cmの台石3基の周辺で無数の炭化物と焼土が確認された。「火処」と思われる。遺物は、台石・敲石・磨石・礫器・石核・剥片類が出土した。

(3) III文化層(AT火山灰の上/IX層)

遺構は、方形土坑と周囲にピット状遺構が検出された。遺物は、磨石・敲石が出土した。

2 縄文時代の遺構・遺物

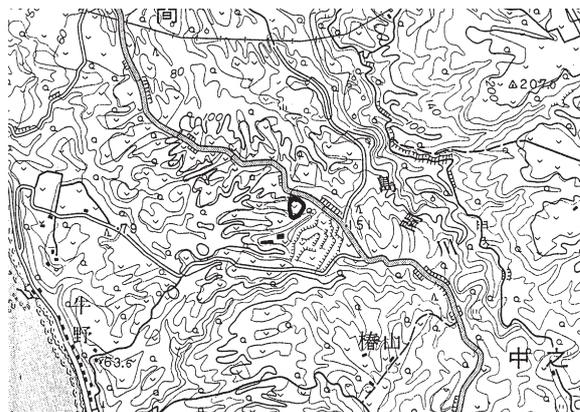
縄文時代は、2文化層が存在した。

(1) 草創期

遺構は、集石が1基検出された。遺物は、隆帯文土器や石皿と磨石がセットで出土した。

(2) 早期

遺構は、集石が9基検出された。遺物は、微隆起突帯文土器・苫浜式土器や石鏃・石槍・ス



第1図 横峯C遺跡の位置

クレイパー・石斧・磨石・敲石等が出土した。

特徴

本遺跡の最大の特徴は、種IV火山灰下位の約31,000年以上前から縄文時代早期の約6,500年前までの時期に継続的にあるいは集石という同様の機能を持つと考えられる遺構が形成される点にある。

放射性炭素年代測定の結果、1号礫群で確実に約31,000年より古いと考えられる。全国で、これまで検出された礫群と比較しても、本遺跡のように検出状況で200個前後の礫数で、掘り込みを持ち、炭化物が集中するいわば完成された形状のものとしては、年代はもちろん現段階では日本最古と推察される。

石器組成の特徴は、敲石・磨石が顕著で、剥片石器が少ないことである。

横峯C遺跡の発掘成果によって、多様な環境変化が起こった旧石器時代に対して、狩猟中心の単一的なイメージを転換させた意義は大きい。

資料の所在

検出遺構は、現地保存されている。また、出土遺物は、南種子町郷土館に展示され、一部は南種子町教育委員会に保管されている。

参考文献

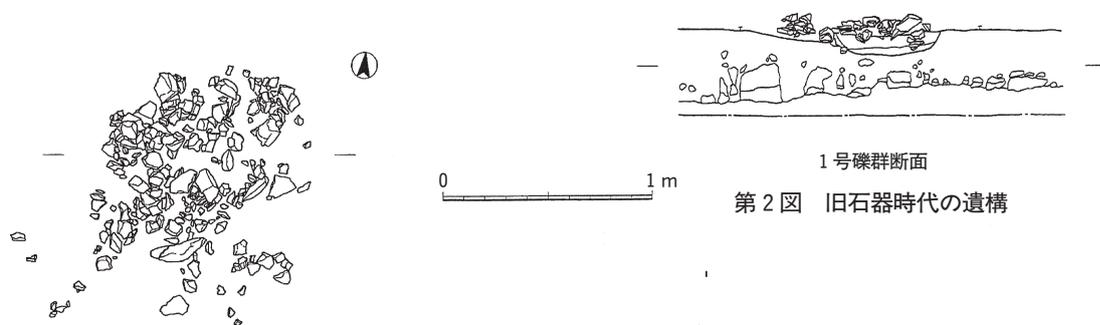
南種子町教育委員会1993「横峯遺跡」『南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書』4

南種子町教育委員会2000「横峯C遺跡」『南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書』8

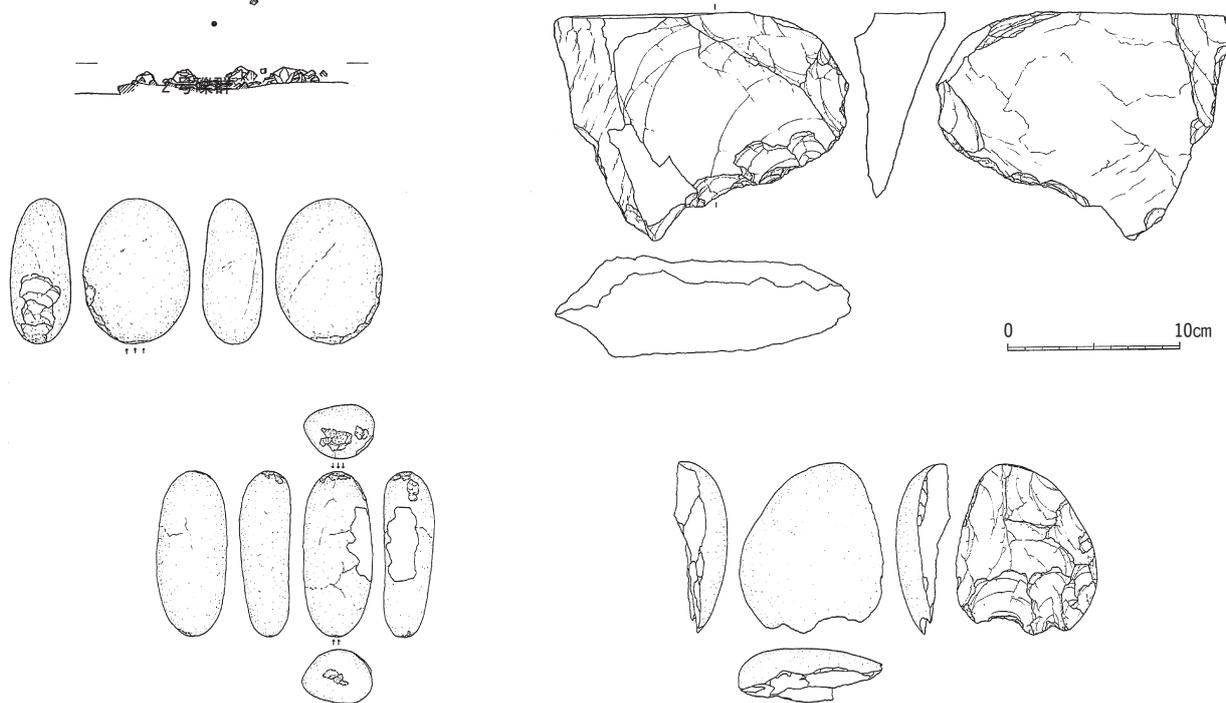
(坂口浩一)



写真1 1号礫群



第2図 旧石器時代の遺構



第3図 旧石器時代の遺物